

まへの湯午莠ゆさぼうのこしらへかたにしたるを、胡麻ごまみそ、又山椒さんしやうみそなどにてあへるなり、切方きりかたは薄うすくして、長ながくも輪切わぎりにもすべし、

甘煮あまに午莠ゆさぼうの拵方こしらへかた

午莠ゆさぼうの太ときものを、洗あらひて、上うへ皮かわを庖丁ばうちやう刀やうにてこそげかとして、飯めしのとり湯ゆを水みづと合あはせたるにて、能よく々湯煮ゆにして、箸はしのわけなく通とほるほどにして、俵ぎまにあげて、上うへより清きよき川水がはみづをかけ、水氣みづきをとりのち、鍋なべに味あじりん酒しゆ四合がよと醬油しやうゆ六合がよの割合わりあひにて、午莠ゆさぼうを入れて、つよき火ひにてこそげつかぬ様やうに注意ちゆういして煮にるべし、煮にあがりたるを、小口こぐちより五六分ぶに切きて、器うつはにもりて出だすべし、上うへに青あをのりを焼やいておぼくかけて出だすべし。

○又初またはじめより五六分ぶの木口切こぐちぎりにして、湯煮ゆにして、

煮にたるもよし

○又右またみぎの如ごとく煮にて、器うつはに盛もりて、上うへより胡椒粉こしきりこをふり、其上そのうへへ積薯やまのいもを湯煮ゆにして、馬尾篩まひのうにて漉こしたる、粉こなをかけて出だすもよし。

紫蘇しそ卷まき午莠ゆさぼうの拵方こしらへかた

午莠ゆさぼうの若わかき物を、洗あらひて、皮かわを庖丁ばうちやう刀やうにてこそげとりて、二寸余すんよに切きつて、湯煮ゆにをして、味淋酒みりんしゆにて能よくく煮に、醬油しやうゆ少量りょうりやうさして、蕃椒とうげら少しをつ、切きりして中なかの種たねを除のぞきて入いれ、一煮ひとにしたるを板いたの上うへに取とり上あげ汁氣じゆきをのけて、梅醋漬うめせづけの紫蘇しその葉は一枚まいづゝのばして、午莠ゆさぼうをさきりくと巻まきて、一いつ種しゆの酒菜さかなまたは他たのあしらひにしてもよし。

（みなつきの料理はつぎにしました）

家庭かていに於おける所感しよかん

長野縣 飯塚忠次郎

鏡から棒を出した様に、突然僕がこゝに筆を起す
 のも外の事では御座いません、平素自分はこう云
 ふ考へを胸にえがいてゐたのである、いつか折が
 あつたならば思ふてゐる事柄や感じたことを新聞
 や雑誌に寄稿したいと考へてゐたのであるが、今
 幸ひ餘閑を得たから、幾多の愛讀者と會員をもつ
 貴誌の貴重な餘白を拜借したると云ふ僕の希望で
 あります、軍國多事なる今日、かゝることをかき
 たてるのは、おこがましいお話かもしれませんし
 又、僕の様な経験のあさい者が貴誌をけがすとい
 ふことば、あるひは失禮にあたるかもしれません
 が、然し一寸の虫にも五分の生靈とか云ふ俗世話
 の通りで幾分かの主義とか自信とか云ふものもあ
 る、記者閣下のまへ耻しい話だか、勿論識者に反
 省を促がすといふ程の意氣込みもないが、聊か爾來

家庭に於て實驗したとや感じたとをかきたてたい
 考へである、幸に我が意のある所をお汲みくだす
 つて掲載の榮をたまはらば無上の喜びに存じます
 (一) 現今の家庭
 近年になりまして世の人々が一般に家庭と云ふ事
 について、たいぶ目を注がれる様になつて來たの
 は何より國家のために大に慶すべきことゝ存じま
 す、學海の波は日を逐ふてたかまりゆき、實に學
 校其ものには乏くありません、そのみでなく家
 庭に關する書籍や貴誌の如き雜誌は月に日に増刊
 せられて、それら多くのものが各々もてるとくし
 よくをはつきして教の庭に活動するなど、何と愉
 快では御座いませんか、此の如く世が彌々進歩す
 るに従つて、家庭もおひ／＼改善されるわけです
 が、現今我が國の家庭の有様が果して如何な方向

にすゝみつゝあるで御座いますしようか。

國を文明に暗黒にみちびくのも家庭の善惡に大に關すること御座いますから、貴賤貧富の區別なく我國一般の人々が之が開拓に鋼や鋸を執るべきは當然な事と思ひます、近頃家庭といふことにつさましては色々のお方がものされたものもあり、また二三の人々が家庭改良とか家庭教育だとかと云ふ方面に於いてしきりと指を染めはぢめた様なものに、それはさわめて狭い狭い範圍に於てせられて居るので御座いますして、全社會は猶依然として舊態をあらためないのであります、現在の家庭ではどうしても満足はできないのですから殊に婦女諸君方は一歩足をおすゝめになつて、家庭改善の唱道者となり暗憺たる家庭の上に一旗をたかくかゝげて、彌此主義を鼓吹してゐただきたいの

であります。

世を愉快に渡ろうと思ふたならば、殊に家庭を以て一つの樂園とするの必要があると考へます、家庭を樂園とするのには個人的な行爲をして居てはいても望をぞくする事はできません、即ち家庭を一つの樂園にするのには一族がこぞつて力を竭し、お互に心を戮し、集りては樂をともし、散じては職を分擔して、有益なる勉強と愉快なる遊戯とに樂しく歲月を送つたならば、自然と家庭も健全に高尚になることは明瞭で御座います、現時此様な趣味ある希望ある(圓滿なる家庭)家庭がどれほど御座いますせうか、筆にするさへ心ぐるしいほどで、實に少くないので御座います、圓滿なる家庭が何故にすくないでせう、之はなにか一の原因がなくてはなりません、其は家人が個人的であ

るからです、自利的であるからです、一日も早く此く弊習を腦裏より消去して健全なる家庭を創起するの念を育成する必要があらうかと思ひます、大きく云へば國家の進歩に關係するわけで研究するの價値ある一の大問題で御座います、圓滿と不和の二岐になるのは個人的なると家族的なるとに依ります。(未完)

よま

於東京小石川 ひらいは としただ

○感心なこ供、私が四月上旬迄おりました灘魚崎といふところに、四才許の女の子がありました。あるとき下女につれられて遊びにでました其の時は雨の降たあげくであつたから、みちがぬかつて所々に水がたまつておりました、はうらゝあそび

まはつてゐるうちに下女の不注意から、しまいねその水たまりの中におちこんでしまつて、あたまから足の先までどろだらけになつたけれども、その子はへーきですぐ立つてかんがへておりました。下女はとんだそゝをしたらと思つてあつげにとられて、その子をだます考へもなかつた、しばらくしてその子は下女にむかひて、こんなになつてうちにかへるとお母さんにねーやがきつとひどいめにあらうから、今日はお母さんにわたいがひとり水たまりの中におちたんだといふから、ねーやはだまつていよといひました。こ供ながらかよーに自分の母が下女にたいしてきびしいのを知て居て他を思ひやるといふとは、この幼き子供心にもわさまへてゐるのであります、ましておとなにいておやであります故に家庭に於てはもちろん、